

平成29年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

研究分担者 池松 和哉 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

研究要旨

本研究では、原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発として、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を作成し、その普及・啓発を目的とする。

本年度は、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）の内容の充実を図った。法医学領域で取り扱う機会が多い外因死について、多数の事例ベースの具体的記載例を作成した。記載例を活用・理解することで、死亡診断書・死体検案書の適切な記載が増えることが期待される。

A．研究目的

死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を作成し、記載に悩む事例についての対応の一助となる教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発としては、事例と模範記載例（標準的記載例）を中心とするコンテンツを作成する。特に、記載のしかたに悩む例での活用を主眼に事例を構成する。

様々な領域の専門家から構成される各分担研究者、研究協力者の協力の下、過去の経験や学会等で伝聞した情報も含め、特に外因死の領域における比較的典型的な事例を収集する。死亡診断書・死体検案書等を作成する上で問題となる点や課題を抽出し、実際に即した形での模擬事例を作成した。作成した模擬事例につき、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成し、さらに解説も加えて内容の充実を図った。作成した記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、様式の統一を図った。

（倫理面への配慮）

例示の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含まないよう、十分配慮した。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例として、特に、内因（疾病によるもの）と外因（外傷や中毒、温度環境など）の両者が関与する事例があげられる。それらを中心に、多数の事例を設定し、それぞれについて模範記載例（標準的記載例）を作成した。

D．考察

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。その集計にあたっては死因の分類がなされるが、これは、死亡診断書、死体検案書の記載内容のうち、死因欄に記載された傷病から選択された原死因を基礎としている。そのため、死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。その結果、原死因を十分考慮していない記載も見受けられる。

医学部の学部教育においても、これら死亡診断書、死体検案書の作成に関する授業が行われている。それに加えて、現場で診療や死体検案に従事する医師を対象とした研修会等での普及・啓発も不可欠である。

本研究では実際の事例に即した形での教育コンテンツを作成した。本年度対応した事例集とその模範記載例（標準的記載例）は、内容に関して講義や研修会等でも幅広く活用でき

るように充実させた。

模範記載例(標準的記載例)を参考にして、死亡診断書・死体検案書の適切な記載が増えることで、直接的・間接的に死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

E . 結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に記載に悩む例について、因果関係の記載が困難な例として、特に、内因(疾病によるもの)と外因(外傷や中毒、温度環境など)の両者が関与する事例を中心に、適切な記載についての内容例示を充実させた。今回作成した教育コンテンツを用いて、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかについての認識が増すことで、死因統計の精度向上、ひいては国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F . 健康危険情報

該当なし。

G . 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. 関連した実務活動

なし

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

該当なし。

